



出口王仁三郎歌碑



出口王仁三郎（でぐち おにさぶろう）は、新宗教「大本」の二大教祖の一人。

明治34(1901)年7月、新宗教「大本」の開祖 出口 直一行15人が出雲大社への往路三日間逗留され、出口王仁三郎聖師が三代教主の日輪受胎の霊夢を見るなどの神秘があったと記録されています。賀露ヶ浜回顧十首のうち一首（出口 直 書）。

「海鳥の声かしましく賀露ヶ浜のあしたになきて波の音高し」